

小学校の一年生の学校生活

つぎのような項目にしたがって、公立小学校一年生の学校生活を紹介しながら、幼・小連絡の意味も考えていきたい。

- 一 一年生の生活時間の実態
- 二 幼・小の教育課程
- 三 一年生の学習内容と学習指導
- 四 一年生の生活指導
- 五 道徳・特活・行事等の内容と指導
- 六 一年生の学級経営

一、一年生の生活時間の実態

1 園児と同等の生活時間

一年生の生活時間は、「一日の教育時間は、四時間を標準とす

授業時数の配当

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
教 科	国 語	238 (7)	315 (9)	280 (8)	280 (8)	245 (7)	245 (7)
	社 会	68 (2)	70 (2)	105 (3)	140 (4)	140 (4)	140 (4)
	算 数	102 (3)	140 (4)	175 (5)	210 (6)	210 (6)	210 (6)
	理 科	68 (2)	70 (2)	105 (3)	105 (3)	140 (4)	140 (4)
	音 楽	102 (3)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)
	図画工作	102 (3)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)
	家 庭	/	/	/	/	/	/
体 育	102 (3)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	
道 徳	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	
計	816 (24)	875 (25)	945 (27)	1015 (29)	1085 (31)	1085 (31)	

※ 授業時数の1単位時間は45分となっており、かつこ内の授業時数は年間授業日数を35週（第1学年については34週）とした場合における週当りの平均授業時数である。

香 川 英 雄

る」という幼稚園とほぼ同じである。

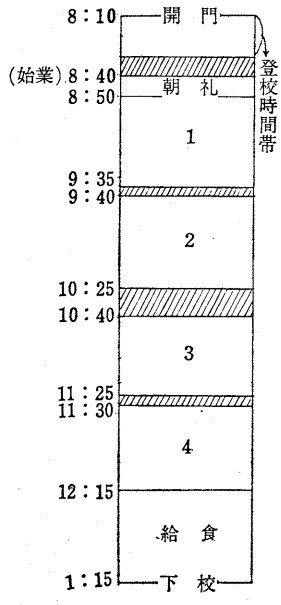
また、二年生とくらべてみても、前頁下段の「授業時数の配当表」に示すとおり大差はなく、授業時数のちがいは一週あたり一時限分にすぎず、午前中授業で二年生もいっしょに下校する日が大部分である。(入門期の四月をのぞいた比較である)

2 少ない自由時間

園児と同等の時間を過している一年生も、学校では自由時間がきわめて少ない。この時程表にみるように、始業十分前に登校してきた児童で、下校までに、左表に示す斜線の合計分の三十五分間しか自由時間がなく、他の四時間十分は指定のわくの中で学校生活を過しているわけである。

3 複雑な生活時間

園児と同等の生活時間を過しながら、自由時間の少ない一年生の生活時間は、日課表にみるとおり、内容が複雑である。



	月	火	水	木	金	土	
8:40	朝礼	話し合	話し合	朝礼	話し合	放送朝礼	
8:50	こく	りか	こく	おん	さん	しやい	
9:35	1						
9:40	こく						
10:25	2						
10:40	たい	おん	たい	こく	たい	さん	
11:25	3						
11:30	りか	さん	おん	ずこ	どう	こく	
12:15	4						
	ずこ	こく	しやい	ずこ	こく	ゆうかい	
1:15	きゆうしよく おかえり						がっき

※二学期途中から一週二時間分がふえる

各領域の内容が国語

・算数などのように分科されているうえに、四十五分の時間帯の区画のせいやくがあることである。

4 生活時間みる幼
・小連絡の問題点
二週間まえまで「遊びや自由な活動」を中

心に過してきた園児が、小学校に入学すると前述の1・2・3で

みたように、急激に自由時間が少なくなるといことは、幼・小一貫教育の上で一つの基底的な問題ではなからうか。

事実、小学校では入門期の指導として入学後三週間ほどは早がえりをさせているが、しかし、それによって生活時間は短縮されても四十五分のわくぐみや、分科された教科のわくぐみからくる、自由時間や遊びのせいやくはそのままである。

けつきよく「時間」の奥にあるもの、小学校では四十五分の時間帯を支えている「教科主義」と、幼稚園の「遊びや自由な行動

どの有機的な結びつきのなかで」という「子ども中心の生活経験主義」との考えの交錯からくる問題のように思われる。そこで、教科主義のもとになる教育課程をみていきたい。

二 幼・小の教育課程

1 小学校の四領域

小学校の教育課程は「幼稚園教育要領」に相当する「小学校学

四領域	その内容
各教科	国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・体育(いわゆる八教科)
道徳	道徳の時間(全学年一週一時間) 学級会活動(全学年毎週一時間) クラブ活動(だいたい五年・六年生毎週一時間) 児童会活動(高学年児童の奉仕部活動や代表委員会を中心とした全校児童の活動で随時おこなう)
特別教育活動(略称・特活)	儀式・学芸的行事・保健体育的行事 遠足・学校給食
学校行事等	その他の行事 朝礼・大掃除・諸検査・諸訓練など

小学校教育課程の四領域

各教科	道徳	特別教育活動	学校行事等
-----	----	--------	-------

幼稚園の六領域				
健康	社会	自然	言語	音楽リズム
絵画製作				

道徳	教科
特別教育活動	学校行事等
小学校の四領域	

習指導要領」に示されている。すなわち上右表にみられる四領域である。そして、四領域の内容としては上左表にあげたものが充当しているものである。

2 幼・小の領域の対照

幼稚園の六領域は、一見すると小学校の各教科との関連かと考えられるが、実際には四領域全体との関連である。

例をとると、幼稚園の「社会」という一つの領域には、小学校の社会以外に道徳・特活・行事などの面をふくむ内容をもっているのである。

このように幼稚園の領域には多様性があり、幼稚園の教育内容のしくみは小学校のそれといくらかちがっているのである。

3 教育課程と日程表

	月	火	水	木	金	土						
	朝礼			朝礼		放送朝礼						
1	この部分は教科						行事					
2												
3												とく
4												学級会
	きゅうしよく(学校行事等) 下校						特活					

との関連

一年生の時間割のうえでも、表にみられるように四領域が位置づけられている。そして、その中核になっているものは「教科」の授業であることがはっきりしている。「道徳」「特活」は各一時間ずつである。また「行事」では「朝礼」のように固定できない各種の行事が、じっさいにはかなりくみこまれてくる。

4 教科をささえる教科書

時間割が児童に配布されていて、必要な学習用具を用意して登校するのはいまもかわりがない。学習用具はほとんど各自負担になっているが、教科書だけは国費による無償配布になった。

ただし、社会・体育・道徳や学級会の教科書はない。

しかし、学校によつては、社会・体育・道徳の市販のものを採択していわゆる「副読本」として使用しているが、この傾向はふえていく。

5 教育内容の差異からくる幼・小の問題

幼・小の教育内容の対照でみてきたように小学校では領域の分化と一本立ちということで、各教科ごとに年間の指導計画が立てられさらに月ごと、週ごと一日と細分化されて時間割へと位置づけられてきているのである。

しかも、たいていの教科で独立した教材としての教科書を背景にするなどいくつもの条件が、小学校の「教科主義」を支えてい

るのである。だからこそ、四十五分帯の教科のわくぐみがくまれるのである。

これに反して、幼稚園の各領域は多様性を持った総合的なもので、領域ごとの指導計画はないわけである。各領域が総合的に組み立てられた指導計画によつて、遊びや生活経験に即して指導していくわけである。だから、そこには一定の区画がなく「遊びや自由な活動」の時間があるのである。

こういったところに、幼・小の指導計画の問題や指導面の差異があらわれているように思われる。

三、一年生の学習内容と学習指導

1 各教科の年間指導計画

各学校には、文部省の学習指導要領にもとづいて、地域の実態や児童の能力の発達段階に応じた各教科の年間指導計画がある。

これによつて各教科の指導がすめられている。

これは戦前のように、全国どこでも画一的なものではない。地域の実状や子どもの能力などにより「内容」の配列や順序も一定していないし、また、使用する教科書により単元名もちがっている。

つぎに示す表は、都会の一年生の一つの年間指導計画である。

各教科年間指導計画

		月		教	
		科		科	
9	7	6	5	4	
<ul style="list-style-type: none"> みんなのはなし 写真 一びきたりない 	<ul style="list-style-type: none"> ことばあそび もうすぐなつやすみ 	<ul style="list-style-type: none"> なかよし きつねとつる たずねる こたえ 	<ul style="list-style-type: none"> かきましよう えんそく はつきりよむ 	<ul style="list-style-type: none"> なまえ えいばなし いちにち よみましよう 	国語
<ul style="list-style-type: none"> えんそくとうんど うかい 	<ul style="list-style-type: none"> なつやすみ 	<ul style="list-style-type: none"> じょうぶなからだ 	<ul style="list-style-type: none"> がつこうのいきか えり 	<ul style="list-style-type: none"> がつこうのようす 	社会
<ul style="list-style-type: none"> ふえたりへったり 50までのかず 	<ul style="list-style-type: none"> かたちづくり いれもののおおき ひょうとくらふ 	<ul style="list-style-type: none"> とけい いろいろなかたち 2010までのかず 	<ul style="list-style-type: none"> 10までのかず きょうしつ 	<ul style="list-style-type: none"> もののみかた 10までのかずえか 	算数
<ul style="list-style-type: none"> あさがおのはなし あきのはなやむし あきのかだん 	<ul style="list-style-type: none"> なつのかだん なつのはなやむし 	<ul style="list-style-type: none"> きんぎょ あさがおのせわ ふんすい 	<ul style="list-style-type: none"> はるのはなやむし あさがおのたねま きんぎ てんき 	<ul style="list-style-type: none"> はるのかだん うさぎとどり 	理科
<ul style="list-style-type: none"> ひのまる つき かみいっばいに ねんどう ぞうさん まねっこあそび 	<ul style="list-style-type: none"> あそびましよう うみ あひるのぎょうれ 	<ul style="list-style-type: none"> どれみのうた かたつむり ほたるこい かごめかごめ たんぼほしみつけ 	<ul style="list-style-type: none"> ちゅうりつぷ おつかいありさん こいのぼり えんそく ことりのうた 	<ul style="list-style-type: none"> めだかのがつこう ちゅうちょ やっばりいねんせ むすんでひらいて なかくまひらいて すうじのうた 	音楽
<ul style="list-style-type: none"> なつやすみのこと かみいっばいに ねんどう ぞうさん まねっこのを 	<ul style="list-style-type: none"> かみぶくろで みたものをもう に はなかご 	<ul style="list-style-type: none"> おはなしのえつ すきなほうぶつ かみはんが こすりだしのえ たのしかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> かぶるもの こいのぼり きれいないろ ねんどうあそび すいそくかん 	<ul style="list-style-type: none"> すきなものをかく すきなえをかく たのしいすなあそ びらべてかく ならべてかく くりかえしもよう きれいないろ 	図工
<ul style="list-style-type: none"> 徒手体操 ふみ越し かけっこ 固定施設の遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 場所とり鬼 かごめ かごめ 動物ごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> 置きかえりレー ふみ越し 手渡し順送球 	<ul style="list-style-type: none"> かけっこ またぎ越し 腕立てとび うしろおとり 	<ul style="list-style-type: none"> ならびっこ まねっこ 固定施設の遊び 	体育



3	2	1	12	11	10
<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのリレー ・げんごろうぶな ・復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・おにども山からも ・うでるな ・よくみて ・よくき ・いて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ききたいこと ・ねこのすず ・写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・一すんぼうし ・ゆうびんごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのつみき ・すわかるようには ・おてつだい ・「きくぶん」 	<ul style="list-style-type: none"> ・うんどうかい ・本をよもう
<ul style="list-style-type: none"> ・にゆうがくしてか ・らいちねん 	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびとあそびば 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちのちかくのみ ・ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・としのくれとおし ・ようがつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちのひとのしご ・と 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちのひとのしご ・と
<ul style="list-style-type: none"> ・たかさくらべ 	<ul style="list-style-type: none"> ・たしぎんとひきぎ ・ん 	<ul style="list-style-type: none"> ・とけい ・わけかた 	<ul style="list-style-type: none"> ・かたちづくり ・おかねのけいさん 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなかたち ・100までのかず 	<ul style="list-style-type: none"> ・たしぎんとひきぎ ・ん
<ul style="list-style-type: none"> ・ががみ ・じしゃく 	<ul style="list-style-type: none"> ・こおりとみず ・ひなたとひかげ 	<ul style="list-style-type: none"> ・はね ・ふゆのてんき 	<ul style="list-style-type: none"> ・くだものかげ ・かぎふみとかげえ 	<ul style="list-style-type: none"> ・きのはやきのみ ・かぎぐるま 	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおのはな ・いしころ ・やまやかわ
<ul style="list-style-type: none"> ・おやど ・おやゆびひめ ・おやゆびひめ ・きみがよ ・すずめのおやど ・いっすんぼうし 	<ul style="list-style-type: none"> ・おうま ・うたかぜさん ・うぐいす ・ひなまつり ・はな一もんめ ・がつきあそび 	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらぼし ・ももたろう ・ゆきだるま ・ゆきのべんきやき ・おもち ・なまねごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おしょうがつ ・ふゆにはねんね ・あられ ・うたあてごっこ ・うたあてごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・たきび ・うたあてごっこ ・なまねあそび ・うたあてごっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうやけこやけ ・おほしきま ・おおきなたいこ ・じゃんけんぼん ・かくれんぼ
<ul style="list-style-type: none"> ・へやをかざろう ・びん人形 ・すきなものを自由 ・にかく 	<ul style="list-style-type: none"> ・かぜでまわるもの ・をつくる ・かみしばいをつく ・かみしばいをつく ・かみしばいをつく ・かみしばいをつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・みたじゅんじよに ・もじをうつくしく ・たてるくふう ・たかくつみあげる ・たかくつみあげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・せつこうはんが ・すばないもよう ・くすばないもよう ・くすばないもよう ・くすばないもよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしのつかうも ・さんむすびあそび ・さんかくパスルあ ・そび ・どうぶつのくに ・すきなもよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・すきないろで ・わたしのつかうも ・わたしのつかうも ・わたしのつかうも ・わたしのつかうも ・わたしのつかうも
<ul style="list-style-type: none"> ・腕立てとびあがり ・とびおり ・のりものごっこ ・おしくらまんじゅう ・おしくらまんじゅう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールけり ・片足ずもう ・徒手体操 ・おきかえりレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・おしくらまんじゅう ・けんおに ・押し出しあそび ・ゴムとび 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりおに ・ボールけり ・なわとび ・おにあそび 	<ul style="list-style-type: none"> ・ころがしドッジボール ・とびおり ・川とびとゴムとび 	<ul style="list-style-type: none"> ・置きかえりレー ・腕立てとびあがり ・足かけ振り足ぬきまわり

この指導計画にもとづいて、学習指導の実際面を国語の一例でみたものがつきに示すものである。

2 学習指導の一場面(国語の指導)

四月当初 単元「なまえ」の指導計画(時間配当 四時限)

単元	指導目標	題材	学習活動
なまえ	絵を中心として聞くこと、話すことを指導し、学校生活を楽しむ心を養う	なふだ うんどう じょう	指示や説明を聞く 絵を見て話しあう はっきり返事をする 文字をよむことを知る
「へんじ」の学習の展開(四十五分)		へんじ	

ねらい	学習活動	指導上の留意点
1よばれたらへんじをする 2へんじのようすにきづく 3さし絵の内容を理解 4文字をとばとして読む 5よばれたら返事をする	1先生によばれた子はへんじをする 2へんじをした子のようすをききとる 3本を開いてさし絵をみて話し合う 4「のりこさん」を読む 5先生によばれた子はへんじをする	1国語の本はとじている。三、四人の子のなまえをよんで、ようすをみる 2よいへんじ、悪いへんじをおさえておく 3「なにをしているの」と、問いつたことを発表させる 4「呼ばれて返事をしているのがなぜわかったか」きくことから、文字を読むことへ導く。ことばの書いてある位置に気づかせる 5はじめより同じ子を呼ぶ。はじめとくらべて、よいへんじをわからせる

6自己紹介をする	7友だちどうし、呼んだりうたりする	8学校と幼稚園のちがいをか、学校に入学したことに注意や、感想などを話して合う	9よくきている、気持ちいい
6自己紹介をする	7友だちどうし、呼んだりうたりする	8学校と幼稚園のちがいをか、学校に入学したことに注意や、感想などを話して合う	9これからの学校行事予定などで先生の話をきく
6五人ほど呼んで前に出し、各自に姓名をいわせる。みんなに、はっきりききとれるように、はっきりききとれることを理解させる	7となりどうしをくみあわせた、何人か前に出してやらせたり、男の子には「くん」、女の子は「さん」	8みんながききとれるように話そうとしているか、ときおりうながしてやる	9たのしい希望を持たせることを主眼にする

ははじめとくらべて、よいわるいを感じとる

はつきりききとれるように返事をする。板書によるうったえ(大小明暗の書き方)

五人ほど呼んで前に出し、各自に姓名をいわせる。みんなに、はっきりききとれるように、はっきりききとれることを理解させる

7となりどうしをくみあわせた、何人か前に出してやらせたり、男の子には「くん」、女の子は「さん」

8みんながききとれるように話そうとしているか、ときおりうながしてやる

9たのしい希望を持たせることを主眼にする

使用教科書は、学校図書「しょうごうこくご一ねん上」
 題材のさし絵は、教科書4ページ5ページの見開きになっているもので、教室で先生が名簿をみながら、なまえをよんでいる場合に「のりこさん」「はい。」の文字がはじめてでてきているものである。
 学習形態は、教科書の場合と同じように教師と黒板に直面して一つの机にふたりずつすわっている。いわゆる一斉授業の形態である。扱われた時期は入学一週間目ごろである。

3 この学習からの幼・小連絡の問題

⑦教科・教材のねらいが先行する小学校

入門期当初の総合的な生活指導は、各教科を含めての、そして各教科に発展する素地となるような指導である。そういう意味でこの「なまえ」の単元や「へんじ」の題材はこれに適合するもので「聞く・話す」活動を主にして国語指導への足場となるものである。したがって、この学習の展開にも「生活→教材→生活」の生活中心の形がみられるが、一方、教科書の教材を媒介にして「教科や教材のねらい」が動かしがたい柱となっていて「聞く・話す」の活動をすすめている。

「生活→教材→生活」の展開の表面からは、いわゆる小学校の教科主義は目立たないが、しかし教科の指導計画からおろされてきた「教科のねらい」や、その媒介になる「教材のねらい」が先行したり中心になっていることはいなめない。

だからこそ、一年生でも黒板中心・先生中心・教科中心の学習指導になっているのだということになる。

⑧生活的・総合的なねらいが中心の幼稚園

小学校の教科主義に対して「遊びの中で認識を深め能力を高める」という幼稚園の指導は、生活的なねらいや総合的なねらいがどこまでも中心になっているとするならば、この両者の差異をどう考えるかということが問題である。

すなわち園児と一年生児と大差のない子どもの指導に、はたして園と小学校のどちらが望ましいものであろうかということである。

⑨要望される文化遺産のくみとらせかた

いずれにしても「遊びや生活の経験上」から、認識や創造性・思考性が身につく場合と、もう一つ「遊びや生活」の中で認識されないことが、文化遺産としてうけつがれてきたものを通して理解されたり、創造性・思考性が身につくという両面があることである。

美術・音楽・文字の「なま」のすがたにできるだけふれさせることが必要だということである。しかし、実際にはその部分や間接的な体験に終わらせていけないかということである。例えば、小学校でも脚色したり、要約した「よみもの」教材を媒介にした授業の中で、読みとりを深めていくことはなされていても、原作が持っている総合的な力にふれさせる計画や指導は行き届いていない。

園児は園児なりに、一年生は一年生なりにふさわしい原作を意図的に与えていきたい。

ものごとの認識や豊かな情操も、思考性・創造性も、文化遺産の力をたしかにうけとるつみあげの中で、自分のものとなり開花されていくものではないだろうか。

(港区立白金小学校)